

2016年12月26日

各 位

第一工業製薬株式会社

「DBJ環境格付」「DBJ健康経営格付」を京都の製造業で初のダブル取得

第一工業製薬(本社:京都市南区、会長兼社長:坂本隆司)は、株式会社日本政策投資銀行(社長:柳正憲、以下、「DBJ」)「DBJ 環境格付」および「DBJ 健康経営(ヘルスマネジメント)格付」(以下、「DBJ 健康格付」)を京都の製造業で初めてダブル取得しました。

「DBJ 環境格付」融資は、DBJ が開発した格付システムにより企業の環境経営度を評点化、優れた企業を選定し、得点に応じて融資条件を設定するという世界で初めての融資メニューです。

「DBJ 健康格付」融資は、独自の評価システムにより、従業員への健康配慮の取り組みが優れた企業を評価・選定し、その評価に応じて融資条件を設定するという、「健康経営格付」の専門手法を導入した世界で初めての融資メニューです。

当社は、創業以来 100 年以上にわたり培ってきた高い研究開発力・技術力を背景に、環境に配慮した循環型の社会の形成に貢献するとともに、「従業員の成長が会社の発展につながる」との基本認識に立ち、全社をあげて健康経営の促進に取り組んでいます。

以上

- ・ 本件についてのお問い合わせ
第一工業製薬株式会社 広報IR室
TEL. 075-323-5951

<ご参考資料>

【DBJ 環境格付の評価ポイント】

- (1) 最終製品の環境負荷低減効果を踏まえた「環境配慮型製品」を定義し、売上拡大目標を設定するとともに、DCR 活動(注 1)や DKPM 活動(注 2)を通じた生産プロセスの不断の改善に取り組み、製品・生産プロセスの両面から環境負荷低減を推進している点
- (2) 独自のアセスメントに基づき取引先を評価し、優良取引先からの調達やランクに応じた改善指導など、サプライチェーンのリスク低減に努めると共に、紛争鉱物等の CSR 調達を視野にサプライチェーン管理を推進している点
- (3) 2016 年度より、従来の「環境・社会活動報告書」から統合報告を指向した「DKS レポート」を発行し、豊かな暮らしの実現に貢献すべく新たな価値創造に取り組んでいることを社外のステークホルダーに発信している点

【DBJ 健康格付の評価ポイント】

- (1) 法令を上回る独自の基準を設け、過重労働者に対する面談指導を 100%実施するなど、労務管理を徹底し、長時間労働を抑制している点
- (2) 多岐にわたる項目によるメンタルチェックを実施し、その後の集団分析結果を踏まえ、管理職向けの研修を実施するなど、職場環境改善に繋げている点
- (3) DKPM 活動により、現場のみならずオフィス部門においても、全従業員一丸となって職場環境の整備に取り組み、事故・トラブルの抑制と生産性向上を両立させる不断の改善を長きにわたり実施している点

(注 1)DKS(Dai-ichi Kogyo Seiyaku) Cost Reduction の略
環境負荷低減と一体となったコスト低減活動

(注 2)DKS(Dai-ichi Kogyo Seiyaku) Productive Maintenance の略
5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基本とし、企業体質の強化、管理・改善の基盤を構築する活動